■2021東京都議会議員選挙　会派マニフェストのできばえチェック表

基本項目		配点	項目	会派・団体名								
				都民ファーストの会	都議会自由民主党	都議会公明党	立憲民主党東京都総支部連合会	東京維新の会	日本共産党東京都委員会	東京・生活者ネットワーク	国民民主党東京都総支部連合会	れいわ新選組
①理念・ビジョン	ありたい東京都の姿（理念・ビジョン・将来像）が示されているか	10	点数	5	4	6	4	4	4	4	2	2
	ありたい東京都の姿の根拠・着眼点が示されているか		コメント	国と都との対比により「はやくてあたらしい東京」というイメージしやすいビジョンを示し政策を掲げている。都民の生活に密着した視点からの政策は並んでいるが日本の首都としてのビジョンは物足りない。	「命を守る。東京を動かす。」というスローガンは掲げられているが、どのような東京都をつくりたいのか、そのビジョンは示されていない。	東京都を「希望の都」にするというビジョンを掲げ「未来を拓く」ために3つの無償化を政策の中心に据えている。	どのような東京都を目指しているのかを打ち出さないまま政策が記されている。逆接的に言えば、これらの政策が実現されたとき、東京はどのような都市になるのかが不明となっている。	「コロナ敗戦から立ち上がる維新8策」としてまとめられているが、具体的に新型コロナウイルスによってどのような事態に陥っているのかという現状分析、立ち上がった時の東京の姿がどうなっているかというビジョンは示されていない。	「安心と希望の新しい政治を東京から　4つのチェンジ」と題して公約を作成されているが、将来の東京の姿（ビジョン）は明示されていない。	党名のとおり「東京を生活のまち」にするというビジョンを掲げ柱となる９つの政策でマニフェストを構成している。ただし、総花的に書かれており、どの政策が優先順位が高いのかがみえない。	『東京政策2021』の中に8項目が記され「６．世界で一番働きやすい・住みやすい東京の実現！」ビジョンと解釈も可能だが、現在の東京都の現状をどのように捉えていて課題がどこにありビジョンをどのように描いたのかという背景は不明。全体的に情報量が少ない。	「誰もが生きやすい東京」「あなたを一番に考える東京」「ひとりひとりを大切にする東京」と候補者一人一人によって目指す東京の姿が異なっている。各候補者の考えはあると思うが党名を掲げ会派を組むとなれば統一されたビジョン設定が必要。
	東京都としての課題が捉えられているか											
②政策の体系性・一貫性・独自性	ビジョン・方針・政策が体系化されているか	10	点数	4	4	5	4	4	3	4	2	2
	相互に矛盾する内容が無定見に盛り込まれていないか		コメント	ワクチン接種、コロナ・ケア、東京五輪と直前にある課題に対して中心的な政策を明示しているが、政策のテーマが示されているだけに過ぎず何が「はやくてあたらしい」かは見出しにくい。	災害への備えとして不燃化にむけた政策を掲げる等いくつか独自の政策が示されている。上記でも述べたスローガンを実現する為の政策は並んでいるが総花的な感は否めない。	高速道路料金所の撤廃、動物愛護センター設置など独自の政策が目を引く。任期4年という短い期間の中で実現したい公約を８つに絞った点は潔さを感じる。	大きな政策の柱が９つ、それを実現する為に306項目が記されている意欲的な政策集になっているが、総花的で「～します」とだけしか示されていない。	「国際バカロレア認定校40校」、「世界一の文化芸術・エンターテインメント都市の実現」など独自の政策が打ち出されている。ただ、DX推進の結果、都庁職員がどうなるのかなど政策の効果と変化から生まれる新たな課題には触れられていない。	都立や公社病院の独立法人化を進めようとする都に対して反対を示し、その対案を示しているが、その他については反対と表記するにとどまっており、キャッチフレーズに書かれている新しい政治の姿はみえない。	示されている項目だけで「生活のまち」を実現できるかどうか疑問があるが、生活に密着した項目がずらりと並んでいる。その点では他党と比較して独自の政策が散りばめられている。	コロナ過での子供や保護者の利用料金を無料にするなどの政策を打ち出しているが、コロナ終息後はどうなるのか？など示されておらず目の前の対策しか見えてこない。全体的に総花的な項目が並び特に目新しさもない。	「下水道PCR検査の実施」「都民一人あたり10万円給付」など独自の政策はあるが、体系立てられているとは受け取れない。
	独自の政策が示されているか											
③政策の具体性・実現可能性	政策の目標・期限・実現方法（工程）・財源などが明示されているか	10	点数	3	3	3	3	4	3	3	2	2
	達成度・成果の事後検証は可能か		コメント	「東京コロナ・ケアで年間15万円の給付」、「携帯電話料金の実質無償化（月額3000円補助）」など一部は具体的な数値が盛り込まれているが、財源を国との交渉によるとしていて実現可能性に疑問が残る点や、実行プロセスは不明な点が多い。	目標期限や数値目標が一部では明示されている。「減税」という独自の政策を示しているが、その財源は現有資産からの捻出とある。どのような試算から具体的に捻出するかまでは示されていないため実現可能性は不透明である。	他党と比較して独自の政策が目を引くが、財源や具体的な実効策等には触れられておらず実現可能性は不明である。また、無償化にする政策、料金所廃止についてはゴールイメージを持ちやすいが、その他の政策については抽象的なため、どの程度まで実施していくつもりか予測しがたい。	政策項目は多岐にわたっているが、どの程度まで、いつまでに、どのようにしては示されておらず、厳しく言えばwishリストになっている可能性がある。また、財源根拠も示されていないため実現可能性について見通しが立てられない。	報酬3割カットなどわかりやすい政策もあるが、他の政策については知事部局にどのように実現を求めていくかが示されていない。議会は過半数を得て初めて実現できるが、その過半数をとるための方策も示していただきたい。第2庁舎の売却などにより財源確保も示されている点は良いが実現プロセスが示されていないため実現可能性については不透明である。	政策の目標、期限、実現方法、財源は明記されていないため実現可能性は不透明である。また、反対と明示するだけの項目もあり、政策と言い難いものもある。	「～する」と表記されているが、どのようにして実現しようと考えているのかが明らかになっていない。また、「どの程度まで」というゴールも示されていないため事後検証が出来ない内容となっている。	取組みたい項目が並んでいるが、いずれも目標値や実現プロセス、財源根拠などは示されていない。	候補者が共通して掲げる政策は３つ。そのいずれもが財源根拠や実現する為のプロセス等が示されていないため実現可能性については不明。
	目標・政策の実現可能性について、合理的な説明がされているか											
	実行体制・実行プロセスは示されているか											
④市民起点度	読み手に取ってわかりやすい工夫はされているか	10	点数	3	3	5	3	3	3	2	2	3
	マニフェストの配布・周知の工夫はされているか		コメント	「重点政策」と詳細版を掲載。文字を少なくし政策の大柱を短いフレーズで表している点は読みやすいが、内容まで示されていないため中身がわからない。また、政策集はHPへ掲載されているのみで、それ以外の工夫は見られない。	世代別、職種別などに分類し都民の生活課題を示している点は読みやすくなっているが、抽象的な表記が多くキャッチフレーズになっている点は残念だ。また、一部、必要な予算額を表記してある政策がある一方で財源を必要とする政策に予算額が表記されていない点がある。	チャレンジ8の項目1つづつに動画による対談形式で政策の背景や目的などが解説されていて読み手に取って理解しやすい工夫がされている。	306項目を表形式にして記している点は整理されており見やすくなっているが、テーマ表記やスローガンにとどまっている点で残念である。動画やSNS等との連動も欲しい。	簡潔に8つに絞って示されている点は読み手に取って見やすくなっているが、この政策を出してきた背景や狙いの説明が不足しているため今後は動画なども活用して説明を期待したい。	自民党、公明党、都民ファーストの会などの方針と対比させることで違いを明らかにしている点はわかりやすく、また、グラフ等を使用している点は読み取りやすい。ただ、政策の根拠や実現手法等について今後は丁寧な説明を期待したい。	マニフェスト部分が36頁、補足説明まで含むと45頁の長編になっているが、全て文字のみの表記のため読み手に取って少々わかりやすさという点で工夫が必要と考える。また、動画での解説など今後は伝え方の工夫を期待したい。	政党のHPへ都議選の政策（8項目）が記載されているのみで詳細版や動画解説なども見当たらない。	動画を掲載しており各候補者の声や意見が伺える工夫をしている。
	策定過程において都民の提案を組み込むプロセスを有しているか											
⑤議会機能力	知事と議会の間に二元代表としてのスタンスが保たれているか	10	点数	2	1	1	3	3	1	3	1	1
	都民の声を吸い上げて都政に反映する仕組みが提案されているか		コメント	党の特別顧問として知事が就任されており二元代表としてのスタンスが保たれているとは言い難い。しかし、その距離の近さを活用して都政改革を進めていこうというキャッチフレーズは示されている。	議会としてのスタンスは明示されておらず都民と議会との関係性も明示されていない。そのため、議会側のマニフェストなのか知事側のマニフェストなのか判断できない。	都議会としての改革視点が持ち込まれていない。「○○やります」とは示されているが、議会の活動をあらためる視点が盛り込まれても良かった。	306項目の中で議会について記されているのは5項目にとどまっている。しかも、基本的な事しか明記されておらず目新しさに欠ける。	情報公開という点に絞って示されているように見える。都議会の内なる課題を解決したいという意欲は感じられるが、都民の代表として都民の意見をどのように集約して都政に生かしていくかという視点が不足している。	都議会をどうするかという点に触れられていない。都議会マニフェストとしては不十分であるといえる。	都議会改革の項目としていくつか示されているが、いずれも基本的な事であり全国の先進議会から比較するとかなり後発にあたる項目となっている。	8項目目に「電子都庁」とあるが、これを拡大解釈して「都民の声を吸い上げる仕組みの強化」、「議会自身の機能強化」と捉えることもできるが都議会自信をどうするかという点については記載がない。	都議選であるが都議会をどうするかという視点は盛り込まれていない。
	議会が自らの活動を見直す提案が示されているか											
計		50	点数	17	15	20	17	18	14	16	9	10
		100	点数	**34**	**30**	**40**	**34**	**36**	**28**	**32**	**18**	**20**
			総合コメント	4年前のマニフェストは当時の都政を痛烈に批判してマニフェストを作成したが、今回も国と対比させることで政治スタンスを示している。 特別顧問に小池知事が就任しているという、二元代表制とする議会の本質からは逸脱しているが、執行部との距離が近いために具体的に実現可能な政策に近づける機会は多くあるかもしれない。ただし、議会としてのチェック機能が十分に果たせるかは疑問が残る。 議会改革も引き続き推進する項目が並ぶが、議会内部の項目ばかりで議会独自で都民の意見を集約する仕組みが盛り込まれていない点は残念である。	現行の政策をさらに進める政策と新たな政策とが記されており都政全般にわたって幅広く示されているが、どの政策が柱となるのか見えづらい。 また、執行部とは違う議会独自の都民の声を集約する仕組みが示されていない。政策立案過程に都民がどのように関係していくか、今後の実践で示していただきたい。 現在発生している課題に向き合ったマニフェストになっているが、将来の東京都がどのような姿になっているのかがイメージしずらく、ビジョンを掲げ、それに向けたマニフェストとされることを期待する。	今回のマニフェストはチャレンジ８ととし、8つの政策に絞って公約を出してきた点は、シンプルで読み手に取っては読みやすくなっているが、それがビジョンを実現するとは言い難い。無償化や廃止など実現すれば非常に良い政策が並んでいるが、裏付けとなる財源をどこで確保するかについて触れられていない所が残念だ。 また、議会活動に全く触れていない点も都議会のマニフェストとしてはいただけない。議会として改める点を示して議会自身も改革に着していただきたい。	このマニフェストの最大の課題は、解決課題は明示されているが東京都の将来像が示されていない点である。 306項目にわたり取り組むテーマが示されているが、いずれも財源や実行プロセスなどが表記されておらず実現可能性という点では不明と言わざるを得ない。 二元代表の一翼を担う議会として、知事部局とどのようなスタンスで向き合い、独自の活動をどのように果たしていくのかが記されていない点は今後に期待したい。 議会マニフェストであるならば、議会活動をどうよりよくしていくかは表記していただきたい。	全般的には行政の効率化（デジタル化）と民間企業の活用、議会の情報公開などが中心に据えられたマニフェストという印象。 「議会」がチェック機関としての役割を果たすという点からは優先順位を絞って作成されていると言える。ただ、将来にどのような東京都を実現したいのかという「ありたい姿」は明示されておらず、その点は残念である。財源根拠については第2庁舎の売却などにより財源確保も示されている点は良いが実現プロセスが示されていないため実現可能性については不透明である。	現在の都の政策や知事部局が示している方針等への意見を表記している点では立ち位置がわかりやすいのだが、反対をし実現した場合、対案はどうするのか、具体的にどのようにして実施していくのか、財源はどうするのか等が示されていないため実現性が想像しづらい。 また、都議会選挙にあたってのマニフェストであるはずが、都議会をどうするという点には記載がなく、都議会マニフェストとしては不十分であると言わざるを得ない。	都民の生活に密着した項目が並んでおり、どれも実際に課題となっているものであろうと考えられる。その点では都民の声を政策に反映していると言える。 一方、それを具体的にどのように課題解決まで持っていくのかが示されていないため、問題の羅列、wishリスト感は否めない。 有権者に幅広くマニフェストを共有していくためにもネットを活用する等、更なる工夫に期待したい。	キャッチコピー的な8項目が記載されているだけで、それ以上の情報が入手できない。そして、この8項目についても体系立てられているとは考えにくい。 コロナ対応とデジタル化が柱になっていると考えられるが、並ぶ順番などからも思い付きで8項目が出てきたのではないかという印象を受ける。	政策項目を少なくすることで読み手にとってはわかりやすいが、その詳細が示されていないためキャッチコピーで終わってしまっている点が残念だ。 また、都議選であるにもかかわらず都議会のことに触れられていないことも政策をどのように議会の中で合意形成を図り実現していくのかが不明である。

採点：　10点……条件を満たしている　⇕　0点……条件を満たしていない

▽条件を満たす割合に応じて配点
（例）条件の8割程度満たしている：8点
条件の3割程度満たしている：3点　等

早稲田大学マニフェスト研究所

※評価は、東京都議会のウェブサイト「会派構成・会派略称一覧」に掲載された団体のうち、6月22日時点で会派等ウェブサイトに都議選向けの政策が掲載された会派を対象とした。